

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタカローラ新大阪レクサス箕面	階数	地下1F、地上1F
建設地	大阪府箕面市稲三丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,360時間/年(想定値)
建物用途	物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年6月 予定	評価の実施日	2018年7月28日
敷地面積	4,688㎡	作成者	竹中工務店 芥子
建築面積	2,040㎡	確認日	2018年7月28日
延床面積	3,617㎡	確認者	竹中工務店 芥子



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.5</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.7</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.5</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.7</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 4.1</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 2.5</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.7</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>全面ガラス張りである明るいショールームとしつつも、LOW-E複層ガラスやブラインド、ペリメーターエリアでの自動風向可変型制気口の採用等を行い快適性を確保した計画とした。また別棟の屋外駐車場の屋根はソーラーパネルとし、全量売電を行う。</p>	<p>その他</p> <p>建物外壁の化粧としてじゃかご壁を用い、室内側は木調のデザインとすることで、緑豊かな敷地に溶け込む計画とした。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>ショールームはペリメーターとインテリアで分割したゾーン空調を行い、ペリメーターは自動風向可変型制気口を採用した。ショールームの光壁はサーカディアンリズムに考慮した調光調色制御を行う。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>サービス空間と従業員エリアを明快にゾーニングする計画とした。また、サービス空間の中でも建物内外に車を魅せるショールームを国道沿いに配置し、プライベートな空間であるラ</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地内は緑化を行い、緑に溶け込む計画とした。また屋外照明は敷地外の南側に広がる福地への光害の影響に考慮した計画とした。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>別棟駐車場の屋根はソーラーパネルとし、太陽光によるエネルギーの創出を行う。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水コマに加えて省水型機器などを用いている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>水質汚濁等を起こさない様配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0043

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	トヨタカローラ新大阪レクサス箕面						
		建設地	大阪府箕面市稲三丁目						
		用途/区分	物販店 工場						
【評価結果】		CASBEE 総合評価					A		
①	CO2削減					3			
②	みどり・ヒート アイランド対策					4			
③	建物の断熱性					4			
④	エネルギー削減					2			
⑤	自然エネルギー直接利用					—			
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
エネルギー消費量の報告						報告しない			
【評価項目】									
項目		評価内容				スコア	評価		
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.0	3		
②	みどり・ヒートアイランド対策								
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				4.0	4		
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0			
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0			
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				4.1	4		
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				2.1	2		
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない		
その他									
		技術の名称			考慮事項				
先進的技術の導入									
特に配慮した事項									